
構造改革の実施と 中期経営計画『改革'11』について

〔2009年度～2011年度〕

2009年3月26日
ユニチカ株式会社

～ 目 次 ～

	ページ
I. 当社グループの現況 3
II. 構造改革の実施 5
III. 新中期経営計画 9

I. 当社グループの現況

1. 足下の経営状況

(単位:億円)	2008. 3	2009. 3	
	実績	予想	見込
売上高	2, 347	2, 330	2, 120
営業利益	116	90	70
経常利益	80	55	35

前年比 約230億円減収 約45億円減益の見込

当期業績予想に対しては約20億円の利益減

- ・原燃料価格高騰は沈静化するも、世界経済のリセッションの影響により販売要因が急速に悪化
- ・特に繊維事業、環境事業等で著しく収益悪化

I. 当社グループの現況

2. 対処すべき課題

① 繊維事業の構造改善と収益の建て直し

② その他不採算事業の再構築、見直し

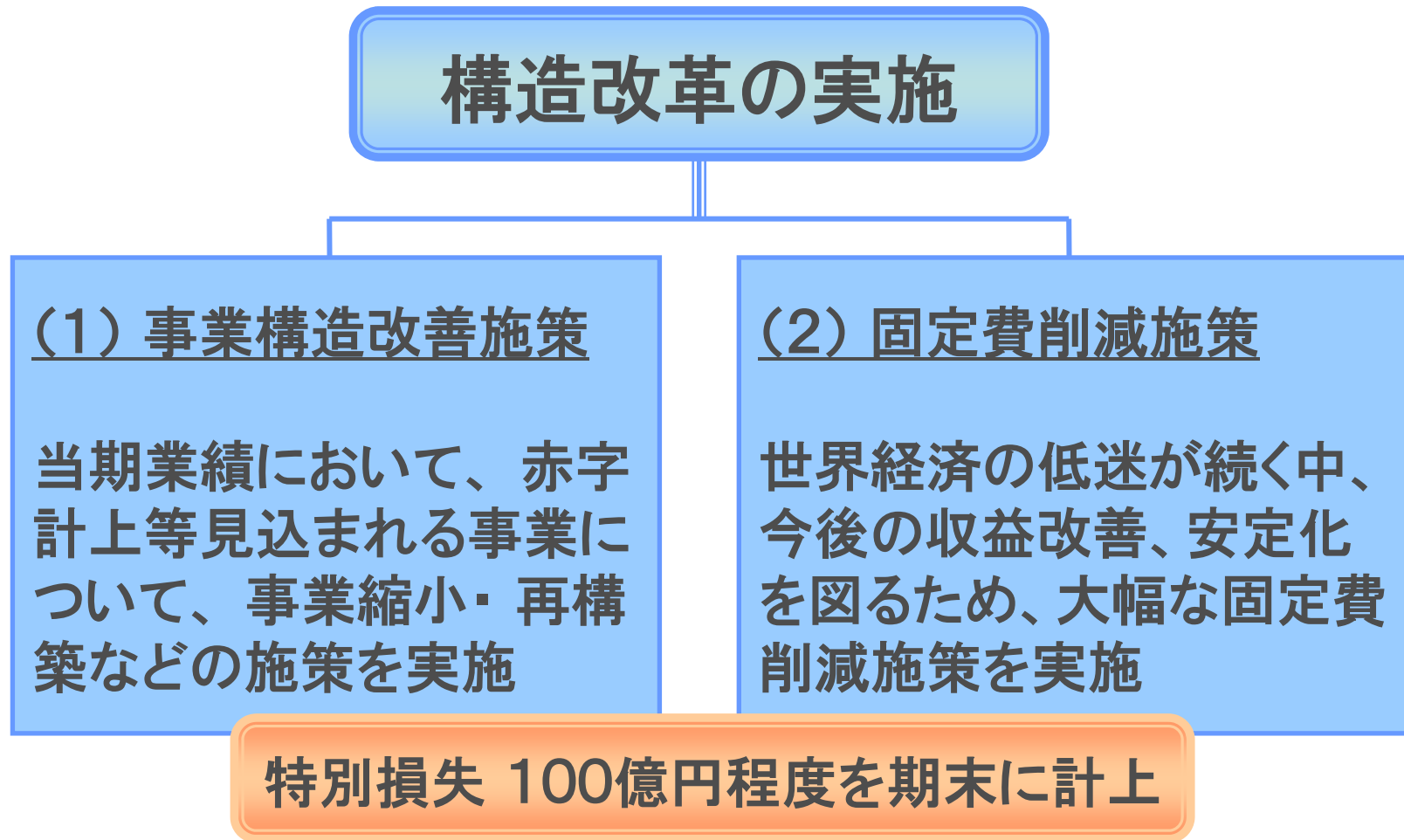
③ 世界経済低迷下での全社収益の維持

④ 成長分野への経営資源の集中

⑤ 財務体質の継続的改善

Ⅱ. 構造改革の実施

1. 構造改革の実施と特別損失の発生



Ⅱ. 構造改革の実施

2. 構造改革の概要

(1) 事業構造改善施策の概要

内容
① ナイロン長繊維事業の撤退 [宇治工場]
② ウール・綿紡織事業再構築に伴う工場閉鎖・縮小 [宮川工場閉鎖(ウール) 常盤工場縮小(綿紡織)]
③ 環境事業の再構築 [官需プラント事業(廃棄物・水処理)の運営体制の見直し]
④ 関連不採算事業の見直し ・電子基板事業の見直し ・合繊部門の川中加工・販売事業の効率化

Ⅱ. 構造改革の実施

2. 構造改革の概要

(2) 固定費削減施策の概要

施策	概要
1. グループ従業員削減	<ul style="list-style-type: none">・45歳以上管理職に対する希望退職の実施・嘱託社員の契約期間満了に伴う退職等 [グループ従業員150名程度の削減]
2. 役員報酬を含む 人件費の削減 ※平成22年3月までを 当面の期間として実施	<ul style="list-style-type: none">・本体役員、執行役員の報酬を50%~25% 程度減額(グループ役員もこれに準ずる) [既に09年1月から実施]・管理職、一般従業員の年収を平均18% 程度削減[09年4月から実施]

II. 構造改革の実施

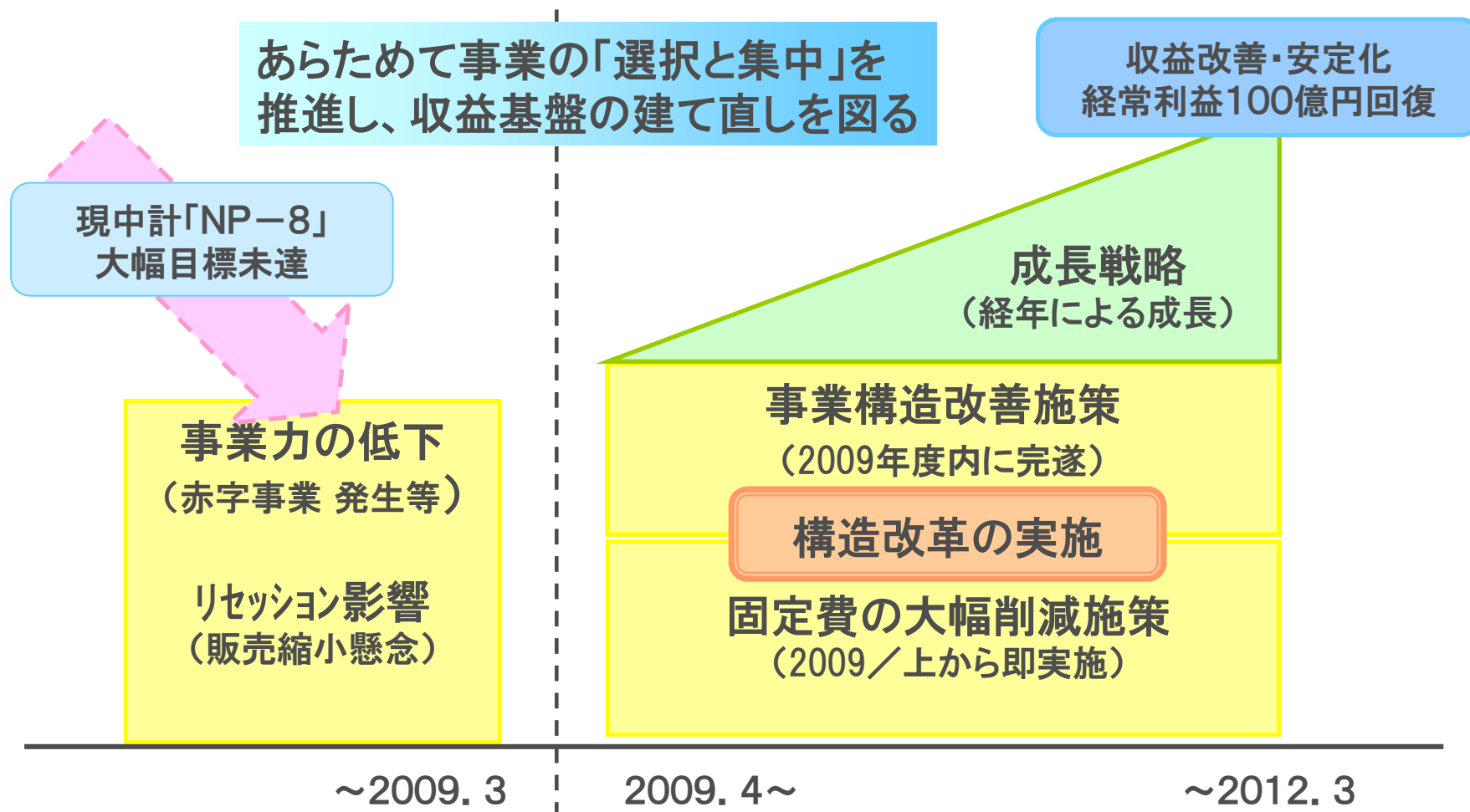
3. 当期業績への影響等

(単位:億円)	2008. 3	2009. 3	
	実績	予想	見込
売上高	2, 347	2, 330	2, 120
営業利益	116	90	70
経常利益	80	55	35
当期純利益	15	10	△140

- 構造改革特損100億円程度を計上する見込み
(特損全体では、設備廃棄、株式評価及び構造改善に係る前倒し処理費用を含め約155億円を計上の見込)
- 更に当期業績見通し等を踏まえ、繰延税金資産の一部約25億円を取り崩す予定

Ⅲ. 新中期経営計画

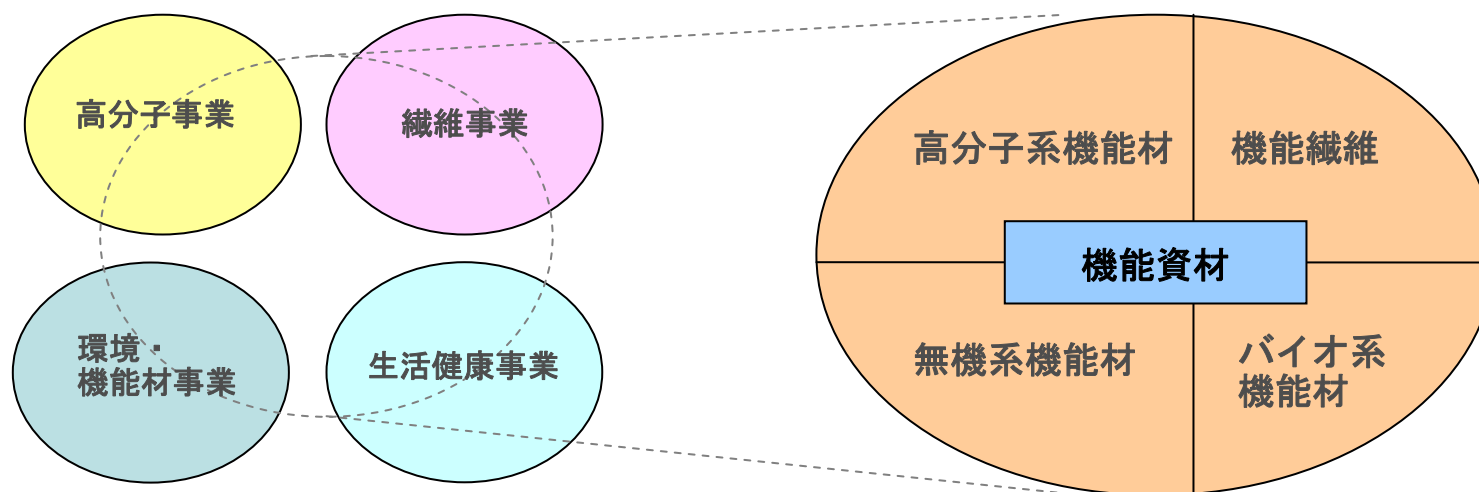
1. 新中期経営計画『改革 ’ 11』の位置づけ



Ⅲ. 新中期経営計画

2. めざす姿

従来の事業構造を見直し、今一度、更なる「選択と集中」に取り組むとともに、高分子分野、機能材料分野を中心とした「機能資材」を核として、事業力の改善・強化を図ります



Ⅲ. 新中期経営計画

3. 経営基本方針

➤ 構造改革の実施

不採算事業の縮小、再構築など事業構造改善及び固定費の大幅な削減を図ります

➤ 機能資材メーカーとしての基盤確立

高分子系、無機系、バイオ系の機能資材メーカーとして成長戦略の基盤を固めます

➤ 企業体質／株主資本の強化

トータルコストの大幅な削減、有利子負債の圧縮、自己資本の充実等により、収益体質の改善、体力強化を図ります

Ⅲ. 新中期経営計画

4. 計画の前提

【経済環境】

年度	経済環境の前提
2009年度上期	実需減＋在庫調整が続く ⇒ 足下の状況が続く
2009年度下期	需要減が続く ⇒ 減少幅は小さくなる
2010年度	需要の回復 ⇒ 緩やかに景気拡大基調
2011年度	需要、生産とも回復 ⇒ 本格的な景気拡大基調へ

【原油・為替に関する前提条件】

項目	2009年度	2010年度	2011年度
原油(\$/バレル)	50-60	60-80	80
為替(円/ドル)	95	100	105

Ⅲ. 新中期経営計画

5. 経営数値計画

(単位:億円)	2009.3 見込	2012.3 計画	増減
売上高	2,120	2,090	▲ 30
営業利益	70	155	+85
経常利益	35	105	+70
当期純利益	▲ 140	65	+205

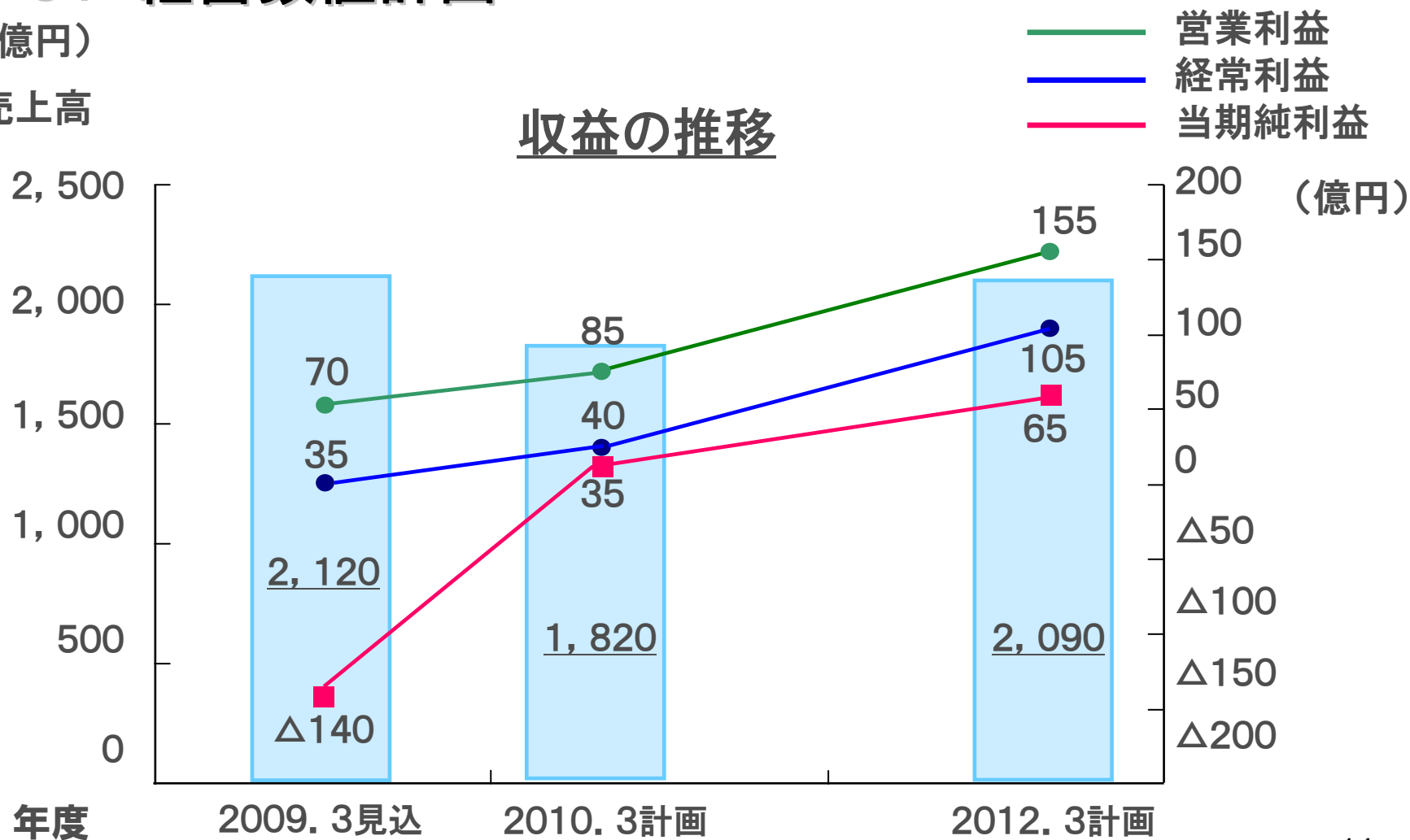
有利子負債	1,997	1,700	▲ 297
自己資本比率	5.8%	13.0%	+7.2%

Ⅲ. 新中期経営計画

5. 経営数値計画

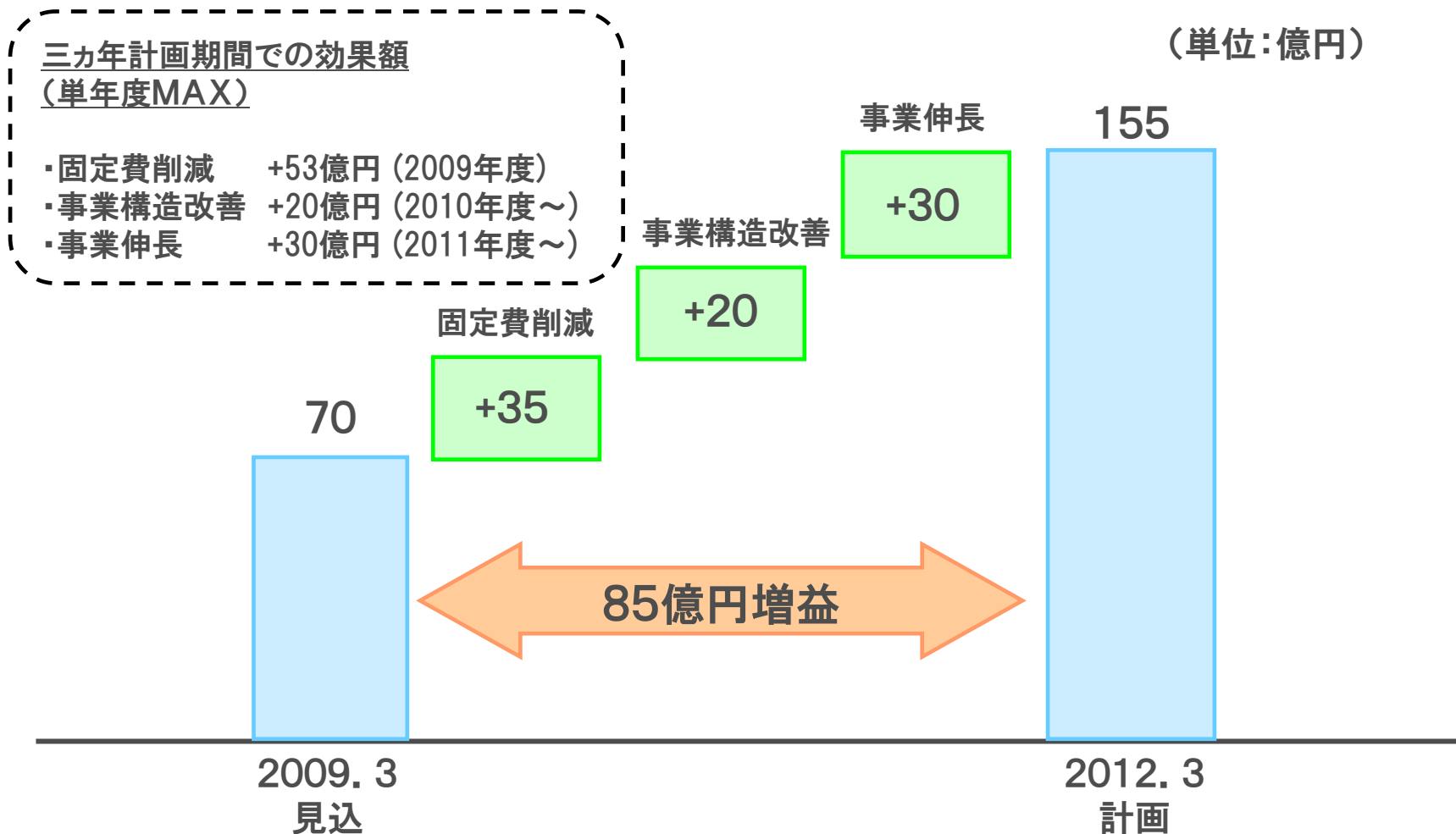
(億円)

売上高



Ⅲ. 新中期経営計画

6. 営業利益計画の変動内訳



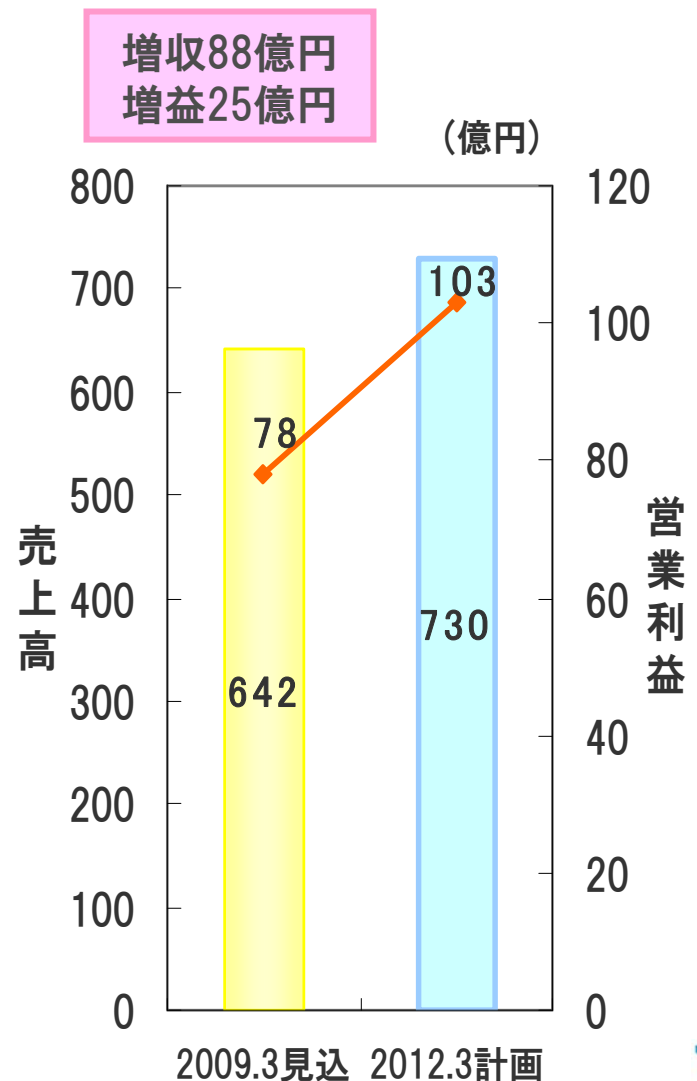
Ⅲ. 新中期経営計画

7. セグメント別数値目標

(単位:億円)	売上高			営業利益		
	2009.3 見込	2012.3 計画	増減	2009.3 見込	2012.3 計画	増減
高分子	642	730	+88	78	103	+25
環境・機能材	285	185	▲ 100	11	32	+21
繊維	943	925	▲ 18	▲ 9	32	+41
生活健康・その他	250	250	0	16	16	0
消去・全社				▲ 26	▲ 28	▲ 2
合計	2,120	2,090	▲ 30	70	155	+85

Ⅲ. 新中期経営計画

8. セグメント別収益変動（高分子）

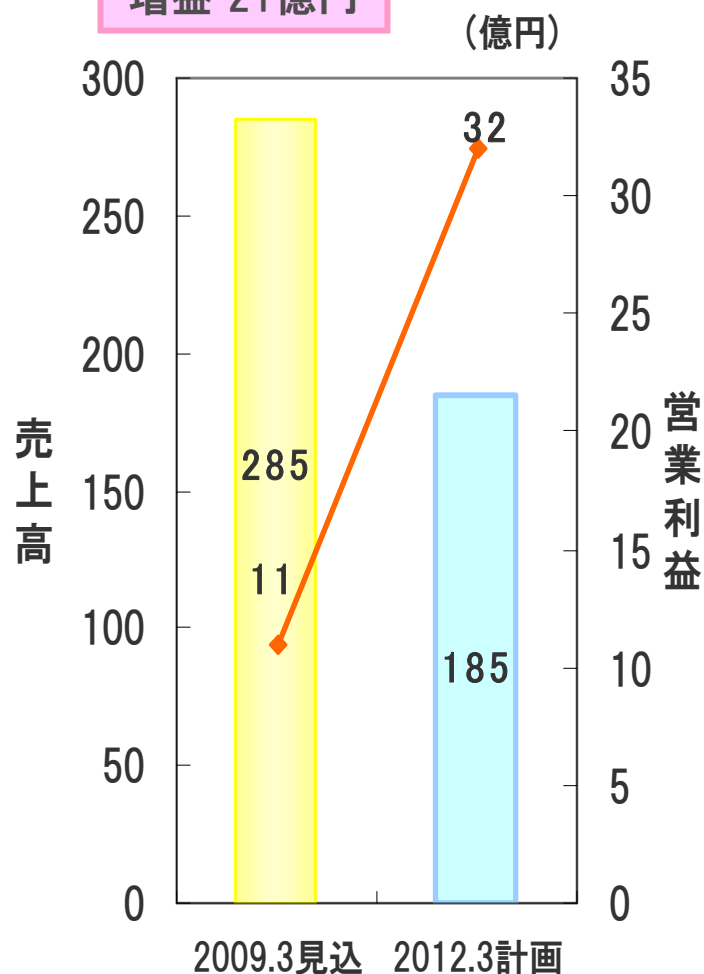


事業	増益寄与 %	主な施策
フィルム	50	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイロンフィルムのグローバル戦略の強化（地域別戦略の推進等） ・ハイバリアフィルムの開発品投入による拡大
樹脂	25	<ul style="list-style-type: none"> ・ナノコン、コンパウンド技術をベースとしたエンプラ等の素形材分野の強化
不織布	25	<ul style="list-style-type: none"> ・タイの合弁会社との連携等により、衛材、生活資材、産業資材向けポリエステルスパンボンドを拡販

Ⅲ. 新中期経営計画

8. セグメント別収益変動（環境・機能材）

減収100億円
増益 21億円

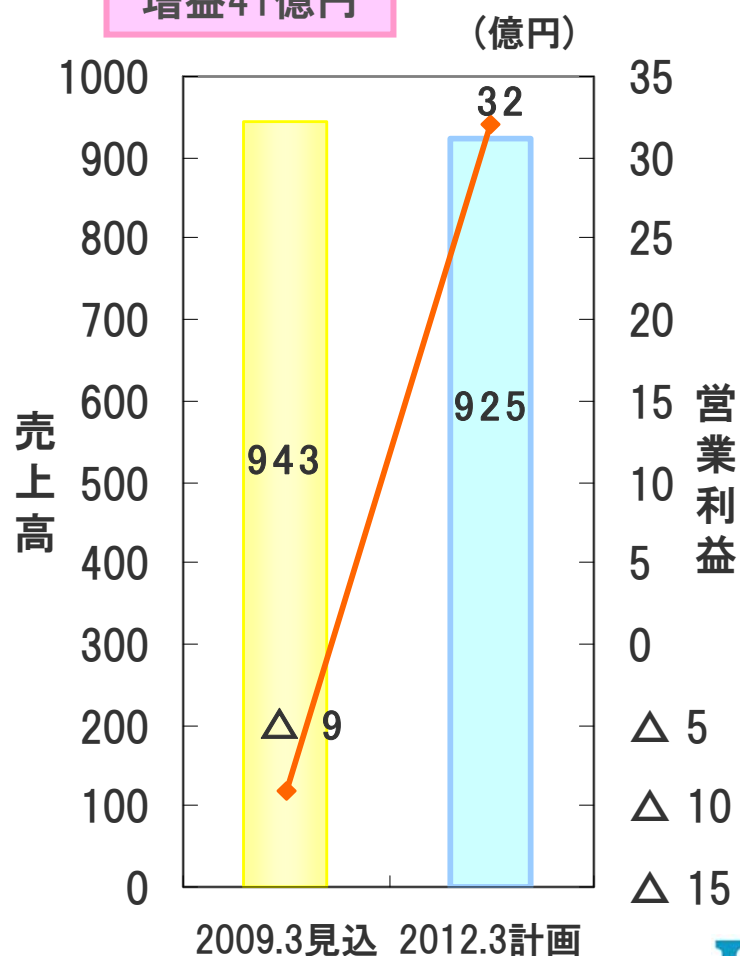


事業	増益寄与 %	主な施策
環境	25	<ul style="list-style-type: none"> ・官需プラントは水処理分野を中心に再構築 ・メンテ、薬剤、民需(水処理)分野の強化
機能材	75	<ul style="list-style-type: none"> ・電子基板事業の見直し ・産業資材用ガラス繊維の商品開発、海外展開による拡大 ・高付加価値ICクロスの展開強化

Ⅲ. 新中期経営計画

8. セグメント別収益変動（繊維）

減収18億円
増益41億円

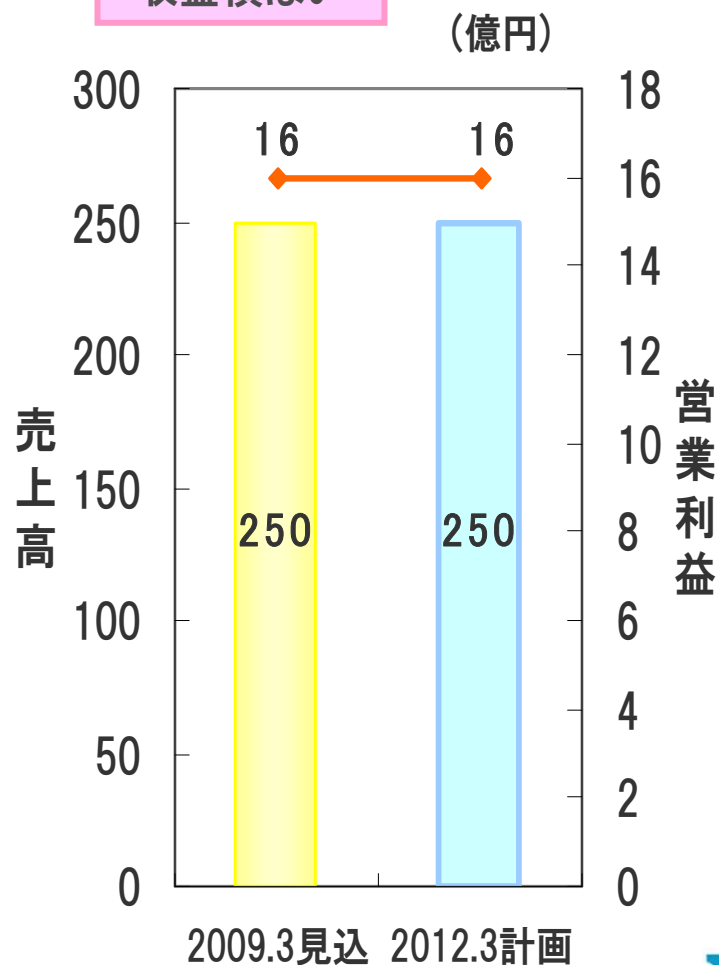


事業	増益寄与 %	主な施策
合成繊維	55	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイロン長繊維撤退 ・不織布用ポリエステル短繊維の生産拡大による強化 ・セメント補強用ビニロン繊維拡大
天然繊維	45	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料繊維分野はグループ内事業・組織の再編を検討 ・工場閉鎖・縮小に伴うグループ内生産体制の効率化 ・高付加価値自家生産品強化

Ⅲ. 新中期経営計画

8. セグメント別収益変動（生活健康・その他）

収益横ばい



事業	増益寄与 %	主な施策
生活健康 その他	—	<ul style="list-style-type: none"> ・酵素事業での開発品の強化 ・セラミド、アラビノースなど機能性食品素材の強化 ・不動産関連事業、その他（設備技術等）事業での収益計上

Ⅲ. 新中期経営計画

9. その他指標

(単位:億円)	2009. 3 見込	新中期計画 (三カ年累計)
設備投資	81	145
減価償却費	75	215
研究開発費	44	130

設備投資 内訳概算	
高分子	55%
環境 機能材	15%
繊維	25%
生活健康他	5%

(単位:人)	2009. 3 見込	2012. 3 計画
グループ人員	6, 910	6, 360
うち正従業員	5, 468	4, 920

ご注意

本資料における業績等の予想および計画の将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後の様々な要因により、業績等の予想および計画と異なる可能性があります。